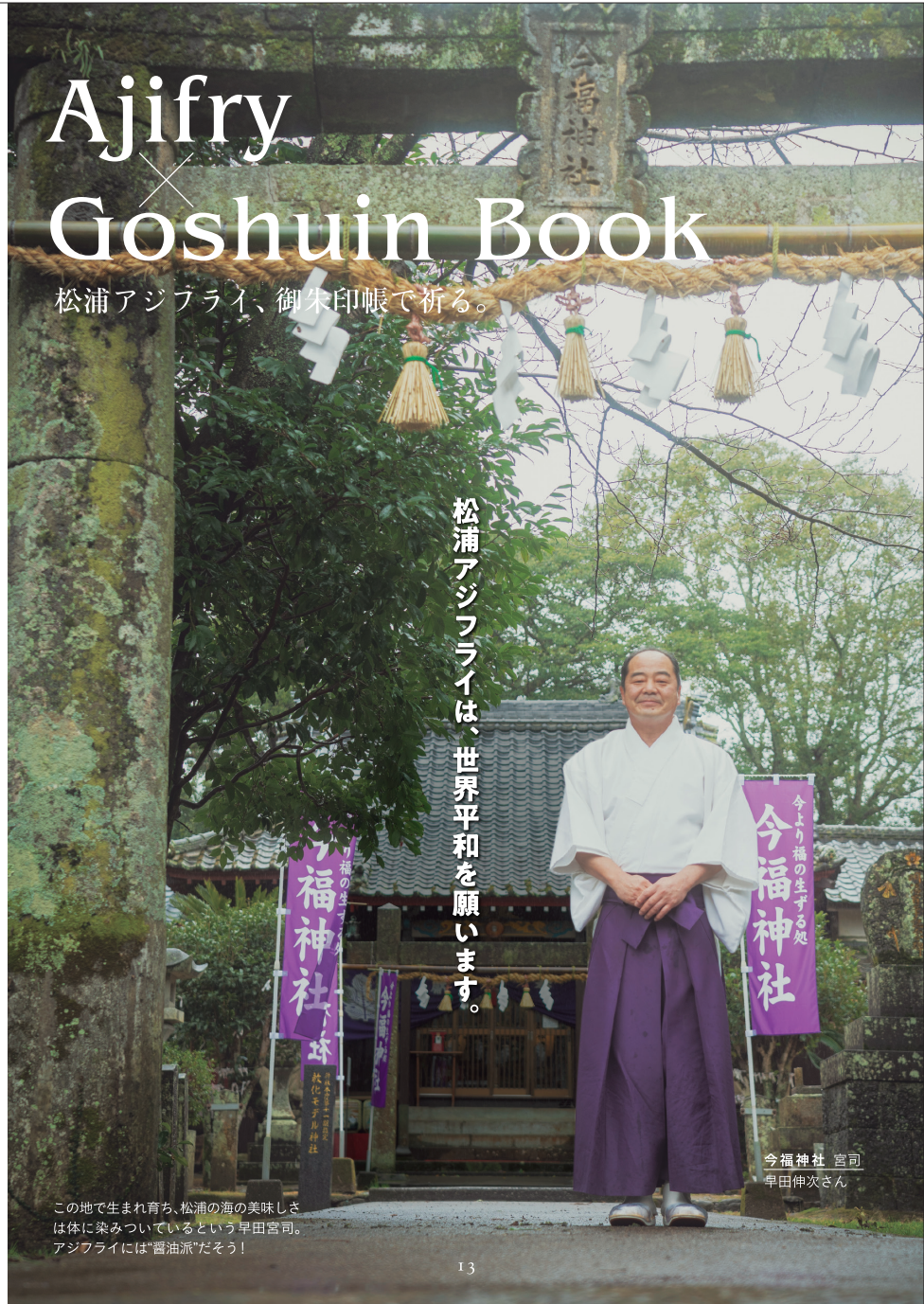


Ajifry × Goshuin Book

松浦アジフライ、御朱印帳で祈る。

松浦アジフライは、世界平和を願います。



今福神社 宮司
早田伸次さん

この地で生まれ育ち、松浦の海の美味しさは体に染み付いているという早田宮司。アジフライには「醤油派」だそう！

平成31年4月27日。この日、友田吉泰市長は松浦市が「アジフライの聖地」であることを宣言！

これと同時に、アジフライの聖地松浦運携店一同は「松浦アジフライ憲章」を發布した。全8条から成るこの憲章の最後に掲げられているのが、「私たちは、松浦アジフライの振興を通して世界平和を願います」という第8条だ。

文字どおり、憲章發布からの3年間、私たちは松浦アジフライがもたらす「美味しい笑顔」「豊かな食卓への貢献」「美しい海を守る活動」を通して、世界平和への小さな一歩を少しずつ重ねてきた。

市内にある「今福神社」の御朱印には、松浦アジフライがその「折願主」のように堂々とその祈りを綴っている。

今福神社は平安時代末期の応徳元年（1084年）、江州の多賀社（現在の滋賀県にある多賀大社）よりイザナギ・イザナミ二柱

を勧請して創建。その後、松浦党祖となる源久公がこの地に上陸。この神社に置いて年越ししたことから「歳の宮」とも呼ばれている。「アジフライを食べにいらした親

青海波には（永遠に途切れない）という意味があるそう。「この地（今福）は～今より福の生ずる処～」と、当時、松浦家の祖が述べたと伝わっています。



光客の方がこちらにお寄りになることも。時代は御朱印ブーム、ここは海にも近く、松浦水軍と縁の深い神社ですから御朱印には「青海波」を描いているのです。

「田舎の一人神主ですから、日中、常に在社できないのですが、御朱印（500円）はできるだけ対応させていただきますと思っています」。事前に電話での依頼が確実。

ちょうどアジフライ（鱈）の聖地

II海でもありますから、喜んでいただけるのでは」とは、宮司・早田伸次さん。自ら「松浦の歴史の伝道者」として、地元集会など数々の講演の場で、松浦史の重要さを語り続けるまちの知恵袋である。

同時に、松浦市のアジフライの聖地への道を支え続けている人物だ。「若いころ、10年の東京生活で悟ったことは、松浦がいかに美味しい土地であるかということ。そもそも都心の人にはアジサバの生食文化がなく、光り物が苦手という人も多いためです。ですから「夏のアジフライ、冬の塩さば」などという松浦の幸、旬のご馳走はきつと喜ばれるはずですよ」。

御朱印になった松浦アジフライ。美味しいだけでなく、「笑顔」「食卓」「海」から世界平和を願う、もう一つの顔を知ってほしい。





AJIFRY × SUBCULTURE

“サブカル”から入る松浦アジフライ、正解。

松浦高校(まつナビプロジェクトのメンバー)/梶原睦月さん、中島あずささん、町田秀斗さん、北島さくらさん、平野翔梧さん、江口菜那さん、柿山慶樹さんと、井形慎治先生。

聖地ならではの“おもてなし”。私たちはその旗印に全国人気のイラストレーター・NONCHELEEE氏によるイラストワークを起用。アジフライへの入り口が“サブカル”であっても全然いい!“食べたくなる ⇨ 来たくなる(買いたくなる)”。どちらも正解なのだから。



サブカルチック!
アジフライグッズ
松浦“愛”をサブカルに! Tシャツは地元人気No.1!
●旬市場(P26)、MatsuoNouen + Coffee (P29)等で購入可



アジフライ★
キャラバンBOX
聖地松浦のスピリッツがぎゅっと詰まったPRイベントのシンボル。
●松浦市地域経済活性化課 ☎0956・72・1111



聖地松浦
“顔はめ”パネル
愉快で楽しい松浦アジフライの世界観にぜひ溶け込んでみて!
●松浦市地域経済活性化課 ☎0956・72・1111



MR松浦
アジフライ列車
珍景! 食品サンプルでつくったアジフライの吊革がズラリ!
●松浦鉄道※ ☎0956・25・3900



アジフライの聖地松浦
石工モニュメント
鷹島・阿翁地区産出の玄武岩「阿翁石」を使用。市内に5か所!
●設置場所はP21～の地図参照

美味しさを記憶に残す「映え」な松浦アジフライアイコンと、一度目にすると思裏から離れない「萌え」なヘリ人・永田さんのモチーフは、聖地のシンボル! Tシャツやステッカーなど松浦市でしか入手できないグッズは若い世代を中心にティープなファンを育んだ。「食べてよし」「買ってよし」「体験もイける」! 地域にしっかりと根づいたアジフライ印たち。しかしこんな愉快なアジフライブームを一番楽しんでいるのは、実は地元なのだ。小さな港町の大人たちがこそぞって取り組む本気の故郷再生。それは子どもたちにもしっかりと受け継がれていた。写真の松浦高校の生徒の一人など、「うちは週一、アジフライです笑。あの店はニラソースもバリ旨です」と、すっかり「小さな観光大使だ」。

4月になると「18歳」は大人の仲間入り。生まれ育ったまちに誇りを持って巣立つ彼らの、その日は近い。

※「アジフライ列車」の運行ルート・時間は前日に発表。また松浦駅を通過しない運行ルートがあるので利用時には電話で確認を。(問)松浦鉄道 担当 : 川村(☎0956・25・3900)